

令和5年度
学習シラバス

— 第2学年 —



鈴鹿市立神戸中学校

2年 【国語】

教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習のしかた

- ・授業前に準備物を用意し、チャイム着席をする。
- ・丁寧にノートを書く。重要なことは色を変えたり、内容ごとに行をかえたりするなど見やすいノート作りを心がける。
- ・積極的に発表する。自分の意見を正しい言葉遣いで言えるようにする。
- ・感想文を書くときは、作者や筆者が伝えたいことやその文章の中心になる内容にふれながら書く。
- ・意見文を書くときは、事実・理由付け・主張が適切に結びつくように書く。
- ・引用する際は、引用のルールに従う。
- ・振り返りの時間で、仲間の意見と自分の意見とを比較したり、学んだことを明確にしたりしながら振り返りシートに書く。

授業で使用するもの

- ・国語の教科書
- ・ノート
- ・ワーク「国語スイッチ」
- ・漢字ワーク「単元別漢字ノート」
- ・はさみ、のり
- ・書写の教科書（3年間同じものを使います。）
- ・文法ワーク「つまづかない！文法の学習」（3年間同じものを使います。）
- ・便覧「新・国語の便覧」（3年間同じものを使います。）
- （・自主学习用ノート）

学期ごとの学習内容と学習のねらい・第2学年

	学習すること	学習のねらい
1 学期	1 オリエンテーション	○授業の進め方を知り、目標を持って積極的に学習に取り組む。
	2 名づけられた葉 (詩)	○リズムを感じながら繰り返し音読して、詩に込められた思いを捉える。
	3 セミロングホームルーム (小説)	○人物設定の仕方を捉え、表現や構成の工夫とその効果について考える。 ○作品を読んで考えたことを共有し、自分の考えを広げたり深めたりする。
	4 言葉発見①	○敬語の意義や働き・種類を理解し、言語生活向上に役立てる。
	5 グループディスカッション	○互いの考えを尊重しながら話し合いを深める。
	6 人間は他の星に住むことができるのか (説明)	○文章の構成について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる。
	7 手紙・メール	○敬語のはたらきについて理解し、話や文章の中で使う。
	8 言葉発見②	○相手に配慮した言い方を学び、言語生活向上に役立てる。
	9 短歌の世界／短歌十首 (解説／短歌)	○短歌のリズムや表現方法などの特徴を理解して、作品の内容を捉える。
	10 短歌・俳句	○表現の仕方を工夫して豊かに表す
	11 文法の窓1	○用言(動詞・形容詞・形容動詞)の活用について理解する。
	12 壁に残された伝言 (報告)	○発見された事実について内容を読み取り、取材した筆者の思いを捉える。
2 学期	1 一〇〇年後の水を守る (評論)	○文章と図表などを結びつけて、筆者の考えを捉えたうえで、自分の知識や経験と照らし合わせて考える。
	2 言葉発見③	○上位語と下位語について理解し、言葉と言葉の関係性を知る。
	3 プレゼンテーション	○資料や機器を活用して効果的に発表する。
	4 枕草子・徒然草 (古文)	○自然や人間に対する、筆者のものの見方や感じ方を捉える。
	5 平家物語 (古文)	○場面や状況を捉え、登場人物の考え方について、自分の考えを持つ。
	6 漢詩の世界 (漢文)	○漢詩独特の言葉づかいや調子を捉え、漢詩の世界を読み味わう。
	7 漢字のしくみ1	○熟語の構成を理解し、漢字のもつ造語力の強さを知る。
	8 複数の情報を関連づけて考えをまとめる (図表)	○意見と根拠などの関係に注意して、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、考えをまとめる。
	9 投稿文	○情報を関連づけて根拠を明確に示す。
	10 文法の窓2	○付属語の働きを理解し、言語生活向上に役立てる。
3 学期	1 大阿蘇 (詩)	○詩の表現方法とその効果を理解し、描かれた情景を読み取る。
	2 言葉発見④	○類義語・対義語を学び、語句の意味や用法の違いに関心を持ち、表現の幅を広げる。
	3 小さな手袋 (小説)	○場面の展開や登場人物の描写などに注意して、関係や心情、意図を読み取る。
	4 創作文	○読みたくなるしくみを工夫する。
	5 動物園でできること (評論)	○文章の全体と部分の関係や、例示の効果などに注意して、筆者の主張を読み取る。
	6 漢字のしくみ2	○熟語の読み方について理解し、文脈に応じて適切な意味の漢字を使い分ける。
	7 論説文	○構成を工夫して考えを伝える。
	8 走れメロス (小説)	○登場人物の言動の意味を捉え、それぞれの人物の考え方について読み深める。
	9 情報誌	○地域の魅力を振り返る。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テストの観点別問題 ・ 漢字テスト ・ 暗唱 ・ 書写 ・ ワークシート <p style="text-align: right;">等</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テストの観点別問題 ・ スピーチ ・ ディスカッション ・ 読書感想文 ・ ノート ・ ワークシート <p style="text-align: right;">等</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の行動観察 ・ ノートや振り返りシート等の記述 <p style="text-align: right;">等</p>

2年 【社会】

教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う国民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

テーマ：「防災・安全」「環境・エネルギー」「伝統文化・宗教」「人権・平和」

学習のしかた

- ・ 日常の授業への意欲的な取り組みが一番大切です。そのためにも、忘れ物をせず授業の準備をして、積極的に取り組みましょう。
- ・ 自分なりに考えて意見を持ちましょう。
- ・ 自分の考えをしっかりと発信しましょう。
その際には、資料や今までの学習などの根拠をもとに、理由も踏まえながらの発信に心がけましょう。
- ・ ほかの人の考えにもしっかりと耳を傾けましょう。自分の意見と比べてみて同じところや違うところはどこか考え、それによってさらに思考を深めていきましょう。
- ・ 定期テストについては、普段の授業の内容をワークやプリントの問題などを使ってよく復習しておこう。
- ・ プリントやワーク、ノートについては定期的に提出をしてもらいます。提出日は予告をしますから、期限を守って計画的に取り組み、提出しましょう。
- ・ ノートへは、黒板に書かれたことだけでなく、自分で気づいたことやポイントだと考えるところを積極的に書きましょう。
- ・ 新聞やテレビから、社会で起こっている出来事を知りましょう。授業で学習した内容との関連を見つけるとともに今起こっていることへの社会事象への関心を高めましょう。
- ・ 学習した内容に関連する資料を集めたり、調べものをしたりして、追及を深めましょう。

授業で使用するもの

教科書、資料集、ノート、地図帳、ワーク、プリント

学期ごとの学習内容と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
一学期	<p>歴史的分野</p> <p>第3章 中世の日本 2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●戦国大名の登場とその支配について、応仁の乱や下剋上の状況から考察し、表現する。 ●代表的な文化財を取り上げて、室町時代の文化の特色を理解する。
	<p>地理的分野</p> <p>第3部 日本のさまざまな地域 第1章 身近な地域の調査</p> <p>第2章 日本の地域的特色</p> <p>①山がちな日本の地形 ②川がつくる地形と海岸や海洋の特色 ③日本の気候 ④日本のさまざまな自然災害 ⑤自然災害に対する備え ⑥日本の人口 ⑦日本の資源・エネルギーと電力 ⑧日本の農業・林業・漁業とその変化 ⑨日本の工業とその変化 ⑩日本の商業・サービス業 ⑪日本の交通網・通信網 ⑫さまざまな地域区分</p> <p>第3章 日本の諸地域</p> <p>①九州地方</p> <p>②中国・四国地方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地形図を読み取る。 縮尺の大きな地図や写真などを活用し、土地利用・地形などを読み取り、身近な地域でみられるさまざまな地理的事象に気づく。 ●調査を通して、身近な地域の地理的特色をとらえる視点や地域調査の方法、地理的なまとめ方や発表の方法を身につけさせる。 ●日本の地形・気候などの特色を理解し、地域差があることを理解する。 ●さまざまな自然災害について理解し、防災意識を育む。 ●日本は人口が多く、人口密度が高い国で少子化・高齢化にともなう課題があることや過疎と過密地域があることを理解する。 ●日本は資源が乏しいが産業がさかんであること、環境やエネルギーに関する課題があることを理解する。 ●世界的視野から日本と世界の交通・通信網の発達の様子や物流、国内の交通・通信網の整備状況を理解し、日本と世界の結び付きや国内各地の結び付きの特色を知る。 ●九州地方の地域的特色について、環境問題や環境保全を産業や地域開発の動き等を通して理解する。 ●中国・四国地方の地域的特色について、都市と農村の変化を人々の生活や産業などを通して理解する。

二学期	地理的分野	<p>③近畿地方</p> <p>④中部地方</p> <p>⑤関東地方</p> <p>⑥東北地方</p> <p>⑦北海道地方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●近畿地方の地域的特色について、産業や文化の歴史的背景や開発の歴史に着目し、それを他地域との結びつきと関連付けて理解する。 ●中部地方の地域的特色について、東海・中央高地・北陸の各地域のちがいを自然条件と社会的条件の両面から考察する。 ●関東地方の地域的特色について、東京に日本の中核機能が集中していることに着目し、そこから他地域や世界との結びつきについて考える。 ●東北地方の地域的特色を、伝統的な生活や文化を通して、その自然環境や歴史的背景、他地域との交流などから多面的に考察し、その生活が変容していることに気づく。 ●北海道地方の地域的特色を、自然環境の特色と関連付けてとらえ、人々の自然環境に対する取り組みなどから自然環境と人間の関係について関心を持つ。
	歴史的分野	<p>2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開</p> <p>第4章 近世の日本</p> <p>1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一</p> <p>2節 江戸幕府の成立と対外政策</p> <p>3節 産業の発達と幕府政治の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●戦国大名の登場とその支配について、応仁の乱や下剋上の状況から考察し、表現する。 ●代表的な文化財を取り上げて、室町時代の文化の特色を理解する。 ●ヨーロッパ人の来航を、ヨーロッパ社会の変化と関連させて理解する。中でも鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易などが日本に与えた影響を考える。 ●織田信長と豊臣秀吉による統一事業を理解し、楽市・楽座や関所の廃止、検地や刀狩などの政策が、どのように中世から近世社会を生み出していったのかを理解する。 ●江戸幕府の諸政策により新しい安定した社会が生まれ、その社会が長く続いたことを理解する。 ●ヨーロッパ文化の伝来や東南アジア各地への日本人の渡航などの対外関係が活発な時期から、外国との交渉が限定された時期へと移っていったことを理解する。 ●安定した社会が次第に変化し、行き詰まっていく原因について、社会のしくみや経済の変化などから考察する。 ●産業や交通が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されていった様子を、今日に至る文化財や史料などから把握し、文化的遺産を尊重する態度を育む。
三学期	歴史的分野	<p>第5章 開国と近代日本の歩み</p> <p>1節 欧米における近代化の進展</p> <p>2節 欧米の進出と日本の開国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●欧米諸国が近代社会を成立させ、アジアへ進出したことを理解する。 ●開国から江戸幕府滅亡までの過程を、欧米諸国の動きと関連させて理解する。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	社会的事象を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 単元テスト ・ 授業中の発言
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象を多面的・多角的に考察したり、課題解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 単元テスト ・ レポート課題 ・ ノート、プリントなどの記述 ・ 授業中の発言 ・ グループ学習での取り組み
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及・解決しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言や課題 ・ ノート、プリントなどの記述 ・ 授業の振り返りの記述

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価によって、5段階評定をつけます。ただし、観点別評価の組み合わせによって評定が2通りの場合があります。その場合は各観点の総合点により、評定を決めます。

2年 【数学】

教科の目標

数学的な活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

学習のしかた

- ・授業前に準備物を用意し、チャイム着席をする。
- ・ノートは、丁寧に見やすく書く。ポイントや注意するところをわかりやすく書く。
- ・問題に取り組むときは、答えだけでなく途中の式も書くようにする。
また、間違えた答えは消さずに残しておく。
- ・積極的に発表や質問をし、先生の説明をしっかり聞く。
また、他の人の発表もしっかり聞き、さまざまな考え方を知る。
- ・授業を受ける前に予習をしておき、授業で習ったことは、その日のうちに復習をしておく。
- ・たくさん問題に取り組み、難しい問題にもあきらめず挑戦していく。

授業で使用するもの

教科書、ノート、ワーク、PC

学期ごとの学習内容と学習のねらい

学習すること		学習のねらい
1 学 期	1章 式の計算 ・ 式の計算 ・ 文字式の利用	○具体的な事象の中から見いだした数量関係を、文字を用いて式に表したり、式の意味を読みとったり、目的に応じて式を変形したりする力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。
	2章 連立方程式 ・ 連立方程式 ・ 連立方程式の利用	○文字式で身につけた能力を基に、連立二元一次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。
2 学 期	3章 一次関数 ・ 一次関数とグラフ ・ 一次関数と方程式 ・ 一次関数の利用	○具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、見いだした関数関係を式や表、グラフを用いて表現し、考察することができるようにする。
	4章 図形の調べ方 ・ 平行と合同 ・ 証明	○観察や操作などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見いだすとともに、平行線の性質や三角形の合同条件を用いて、それらを証明することができるようにする。
	5章 図形の性質と証明 ・ 三角形	○図形の合同について理解し、図形についての見方を深めるとともに、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し、表現することができるようにする。
3 学 期	・ 四角形	○平行線の性質や三角形の合同条件を使って、平行四辺形の性質を調べ、四角形がどのような条件をもてば平行四辺形になるかを論理的に考えることができるようにする。
	6章 場合の数と確率 ・ 場合の数と確率	○不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解し、それを用いて考察し、表現することができるようにする。
	7章 箱ひげ図とデータの活用 ・ 箱ひげ図	○資料の散らばりの程度に関心をもち、四分位数や四分位範囲をもとに箱ひげ図をかき、資料の傾向を読みとることができるようにするとともに、それらの意味や必要性を理解できるようにする。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストの観点別問題 ・ 定期テストの観点別問題 ・ ノートの記述内容 ・ ワークシートの記述内容 <p style="text-align: right;">等</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストの観点別問題 ・ 定期テストの観点別問題 ・ ノートの記述内容 ・ ワークシートの記述内容 <p style="text-align: right;">等</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストの観点別問題 ・ 定期テストの観点別問題 ・ 授業中の行動観察 ・ 振り返りの記述内容 ・ テスト反省用紙の記述内容 ・ 宿題や提出物への取組状況 <p style="text-align: right;">等</p>

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価をもとに、5段階評定をつけます。

2年 【理科】

教科の目標

自然の事物・現象に進んで関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に探究する力と態度を養うとともに、自然の事物・事象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身につける。

学習のしかた

- ・授業を積極的に取り組みましょう。
- ・観察や実験には、真剣にのぞみ、正確かつ丁寧に取り組みましょう。
- ・実験の予想や考察など、班での話し合いを大切にしましょう。
- ・実験・観察レポートやプリントなどの提出期限を守りましょう。
- ・疑問に感じたことはそのままにせず、いつでも質問に来てください。

授業で使用するもの

教科書、ノート、資料集、ワーク、定規、chromebook

年間学習計画と学習のねらい

理科		
	学習すること	学習のねらい
1 学期	化学変化と原子・分子	物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。また、物質は原子や分子からできていることを認識する。
	物質の成り立ち	原子や分子を化学式で表すことができる。また、化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表すことができる。
	さまざまな化学変化	2種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだす。また、さまざまな化学変化を原子・分子のモデルや化学反応式を用いて説明できるようになる。さらに、酸化と還元が同時に起きていることや、化学変化に伴う熱の出入りについても認識し、それらが日常生活にも多く利用されていることに気づく。
	化学変化と物質の質量	化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。
生物	生物の体をつくるもの	生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだし理解する。

2 学 期	の 体 の つ く り と は た ら き	植物の体のつくりとはたらき	植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連づけて理解する。
		動物の体のつくりとはたらき	消化や呼吸、血液の循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて理解する。また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。
		動物の行動のしくみ	動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する。
	地 球 の 大 気 と 天 気 の 変 化	地球をとり巻く大気の様子	地表にあるもののすべてに大気圧がはたらいていることを理解させ、身のまわりの大気の状態を認識する。また、身のまわりの大気の状態を観測結果などを利用し、気象要素の変化と天気の変化の関係を見いだす。
		大気中の水の変化	霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解する。また、地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識する。
		天気の変化と大気の動き	気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。また、日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。
		大気の動きと日本の四季	大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。さらに、日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。
3 学 期	電 流 と そ の 利 用	電流の性質	回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係について規則性を見いだすとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。
		電流の正体	日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見だし、真空放電の観察から、電流の正体について理解する。
		電流と磁界	日常生活と関連づけながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解し、直流と交流の違いを捉える。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	・自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。	・定期テスト(中間・期末) ・宿題テスト ・小テスト ・実験・観察レポート ・自由研究
思考・判断・表現	・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する。	・定期テスト(中間・期末) ・宿題テスト ・小テスト ・実験・観察レポート ・授業での発表内容 ・自由研究
主体的に学習に取り組む態度	・自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。	・ノート、ワーク、プリントの取り組み状況 ・活動の様子 ・自由研究 ・小テスト

その他

○観点別評価から評定へ

観点別評価によって、5段階評定をつけます。ただし、観点別評価の組み合わせによって評定が2通りの場合があります。その場合は各観点の総合点により、評定を決めます。

りかしつ つか かた 理科室の使い方



りかしつ はい 理科室に入ったら…

- ・席は決められた場所に座りましょう。
- ・走り回ったり、遊ぶことがないようにしましょう。

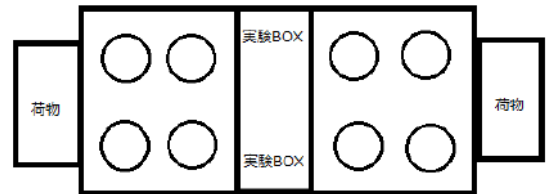
じゅぎょうかいし 授業開始！

- ・安全に実験をおこなうためにも、先生の指示をきちんと聞きましょう。
(危険な薬品を使用する場合があります。)

- ・理科準備室は生徒立ち入り禁止です。

じっけんじ 実験時…

- ・実験開始前にぬれた雑巾を準備しましょう。
- ・実験めがね等着用する場合は、きちんと着用しましょう。
- ・実験机の上は必要最低限のものだけにし、
実験机横のロッカーに荷物を置きましょう。
- ・実験BOXは水道の上に置きましょう。
- ・実験中は原則イスを実験机の下にしまい、
立って行いましょう。
- ・実験器具は大切に使いましょう。
万が一、実験器具を破損した場合やケガをしてしまった場合は、
速やかに先生に報告しましょう。
- ・班で協力して取り組みましょう。



じっけんしゅうりょう 実験終了！

- ・片づけは先生の指示に従いましょう。
実験器具を洗う場合はきちんと洗浄しましょう。
- ・次のクラスが気持ちよく使えるように実験机はきれいにして帰りましょう。

※ルールを守れない人がいた場合、実験ができなくなってしまう場合もあります。
みんなで安全に実験ができるよう協力して頑張りましょう！

※コロナウイルス感染拡大防止のために理科室に入る前は必ず消毒し、
実験中は安全めがねを着用しましょう。

2年 【音楽】

教科の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

学習のしかた

- ・授業前に準備物を確認し、チャイム着席をする。
- ・【本時のめあて】を確認し、自分がこの時間特に頑張っておきたいことを、振り返りシートの【自分のめあて】に記入する。
- ・個人の活動、グループ練習、全体練習などは、目的意識を持って積極的に取り組む。
- ・自分のイメージや思いを仲間に自信を持って伝えたり、仲間の意見もしっかりと聴いたり良さや違いを認め合う。
- ・振り返りシートに【本時のめあて】と【自分のめあて】が達成されたか、何を学ぶことができたか等を記入する。
- ・自分が使用した机やイスは整頓してから教室に戻る。イスは必ず上にあげて、イスの靴下を4つはめる。

授業で使用するもの

- ・音楽の教科書(2・3年上)
- ・器楽の教科書
- ・Joyful Songs
- ・音楽ファイル
- ・筆記用具

年間学習計画と学習のねらい

	学習すること	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> * オリエンテーション * 呼吸法、発声法 1 歌唱「翼をください」 2 鑑賞曲「交響曲第 5 番ハ短調」 3 歌唱「夏の思い出」 4 創作 「鈴鹿の町の CM ソングを作ろう①」 5 合唱コンクールへの取り組み 課題曲 自由曲 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業を受けるためのルールや目標等を理解する。 ○歌唱に必要な呼吸や発声を身に付ける。 ○パートの役割を理解して合唱する。 ○曲の構成に注目しながら曲想の変化を味わう。 ○情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌う。 ○作曲するにあたっての必要な楽典を復習する。 ○クラス全員が合唱曲と向き合い作り上げていく中で、頑張っている仲間を認め協力しながら、試行錯誤を繰り返し曲を完成させる充実感や達成感を味わう。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 6 合唱コンクールへの取り組み 課題曲 自由曲 7 鑑賞「フーガ短調」 8 器楽「ギター」 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞や旋律にふさわしい表現を工夫し、指揮やピアノに合わせて豊かに歌う。 ○旋律が重なり合っていく面白さを味わう。 ○ギターの奏法を知り、曲を演奏する。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 9 鑑賞「アイダ」 10 歌唱「サンタルチア」 11 創作 「鈴鹿の町の CM ソングを作ろう②」 12 まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○オペラに親しみ、その音楽を味わう。 ○曲想を生かして表情豊かに歌う。 ○作曲の方法を理解し、曲のイメージを固める。 自分がイメージしたものを、音楽を形作っている要素と関連させながら作曲する。

評価方法及び評定について

○評価方法…3 観点を ABC で表し、1～5の評定をつけます。

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<p>曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。</p>	<p>活動の様子 歌唱・演奏の様子 鑑賞の様子 定期テスト 実技テスト 各種プリントの内容 や感想文 振り返りシート</p>
<p>思考・判断・表現</p> <p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p>	<p>曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p>	
<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。</p>	

2年 【美術】

教科の目標

表現や鑑賞などの幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせて、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 形や色彩、材料、光の性質など、ものごとをとらえるときの視点について理解する。表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 作品のよさや美しさ、表現の意図や工夫などについて考え、作品に生かすことができるようにする。豊かに発想して作品のアイデアを練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 創造活動の喜びや、美術を愛好する心情を育て、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養う。表現や鑑賞の幅広い活動を通して美術の創造的活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

学習のしかた

- ・準備物を確認し、チャイム着席で授業にのぞむ。
- ・私語を慎み、集中して制作にとりくむ。
- ・本時のめあてや制作のポイントを的確に把握し、課題に対して主体的に取り組む。
- ・創作活動を振り返り、今後の創作に生かせるようにする。
- ・他者の意見や作品を参考にしながら創意工夫して、作品を制作する。
- ・技法や用具などの基本的知識を理解し、自分なりの表現方法を創意工夫する。
- ・美術資料集などで知識や技能を幅広く身につけ、多様な表現や発想ができるようにする。
- ・作品に対しての自分の意見を伝えたり、友人の意見を聞きながら、協力して学習にとりくむ。

授業で使用するもの

教科書 資料集 スケッチブック レタリング字典 鉛筆 ファイル
※デザインセット ※色鉛筆

※については、課題に応じて準備する。

年間学習計画と学習のねらい

題材		学習すること
1学期	1 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 美術の授業における「ルール」や「心構え」を確認する。
	2 デッサン（絵画）	<input type="checkbox"/> モチーフをじっくりと観察し、「形」「光と影」「質感」をとらえる。
	3 鑑賞	<input type="checkbox"/> 作品の良さや、美術の歴史に触れる。 <input type="checkbox"/> 自分の感じたこと、考えたことを言葉にする。
2学期	1 モダンテクニック	<input type="checkbox"/> 「スパッタリング」や「ドリッピング」などの技法を学ぶ。
	2 デザイン （平面構成）	<input type="checkbox"/> 季節をあった色やモチーフを選び、世界観を画面構成し、色彩で表現する。
	3 鑑賞	<input type="checkbox"/> 過去の作家の作品の鑑賞を通して、歴史的背景等もふまえて、その画家や作品についてより深く知る。
3学期	1 立体 （粘土）	<input type="checkbox"/> 「質感」「形」などにこだわり、制作する。 <input type="checkbox"/> 考えたデザインをもとに立体にする。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、さまざまな技法や用語など造形的な視点について理解できているか。意図に応じて、身につけた表現方法を十分に活用し表現できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト 作品 ワークシート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んだことについて独創的・総合的に考え、工夫して、作品に生かすことができているか。作品についての主題を豊かに発想し、構想を練ることができているか。美術文化に触れたり、美術作品などを鑑賞し、作品についての見方・考え方を深めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート テスト
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 美術について主体的に関わる姿勢を持ち、授業に取り組むことができているか。表現、鑑賞活動の制作過程において、よりよい作品を制作しようと調整や工夫をおこなおうとしているか。お互いの個性を生かしあい、協力して制作できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子 ワークシート

2年 【保健体育】

教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを旨とする。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

学習のしかた

- 時間を守る。
 - 集合・整列を素早く行う。
 - あいさつをきちんと行う。
 - 服装をきちんと整える。
 - 安全に気を配って活動する。
 - 運動を積極的に行う。
 - 技を工夫し、練習する。
 - 自己の能力に合った技を正確に行う。
 - 基本的技能を理解する。
 - ルールや試合の運営方法を学び、ゲームに親しむ。
 - 日頃から健康管理を心がけ、日々の授業に集中できるようにする。
- 《事故や怪我などを防止するために》

 - ・事故や怪我などを防止するために、授業の前に自己の健康状態を確認しよう。
 - ・練習や試合をするにあたっては、自己の健康状態や体力を十分理解し、施設・用具等の安全を確かめよう。
 - ・運動の難易度や自己の技能の程度を知ってから行いましょう。

授業で使用するもの

体操服、運動靴、体育館シューズ、中学保健体育、中学体育実技、保健学習ノート、ファイル

年間学習計画と学習のねらい

	学習する内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 ○集団行動 ○体力テスト ○陸上競技 (跳躍種目) ○水泳 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と病気の予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしや体力の向上をねらいとする。 ・集団として必要な行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにする。 ・運動をする時には、自己の体力と適性を知ることが必要である。従って、自己の体力の現状を正しく理解する。 ・助走のスピードを利用し、より高く、より遠く跳ぶことをねらいとする。 ・仲間と協力して、共に運動に取り組む。その中で自分達の課題を見つけ、その課題克服にむけての練習方法を計画できるようになる。 ・できる泳法で時間や距離に挑戦したり、新しい泳法に挑戦したりする。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身にさまざまな影響を与え、健康を損なう原因となることを理解する。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○器械運動(跳び箱) ○球技 (ベースボール型) ○陸上競技 (長距離走) ○ダンス ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と病気の予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・今もっている技能を把握し、新しい技にチャレンジしていく。 ・今もっている技能を活用してゲームを行い、チームで攻撃や守備の作戦を立ててゲームができるようにする。 ・ある特定の長い距離を速く走り通し、記録の向上をねらったり競争したりする。 ・仲間と協力して、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようになる。また、互いの違いやよさを認め合えるようになる。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身にさまざまな影響を与え、健康を損なう原因となることを理解する。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ダンス ○球技 (ゴール型) ○保健 <ul style="list-style-type: none"> ・傷害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようになる。また、互いの違いやよさを認め合えるようになる。 ・今もっている技能を活用してゲームを行い、チームで攻撃や守備の作戦を立ててゲームができるようにする。 ・自然災害や交通事故などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかわりあって発生していることを理解する。また、安全な行動、環境の改善によって防止することを知る。

※年間を通して、各単元で「体育理論」を行う。

※他学年との場所の調整や学校行事・天候等により、上記にあげた種目を変更する場合があります。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	<p>運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。</p> <p>個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p> <p>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身につけている。</p>	<p>授業での発言及び内容</p> <p>定期考査</p> <p>行動観察</p> <p>実技テスト</p>
思考・判断・表現	<p>生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。</p> <p>個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。</p>	<p>行動観察</p> <p>授業での発言及び内容</p> <p>自己評価・学習カード</p> <p>定期考査</p>
主体的に運動に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。</p> <p>個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p>	<p>行動観察</p> <p>授業での発言及び内容</p> <p>自己評価・学習カード</p>

2年 【技術・家庭科】

教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を目指す。

<技術分野>

- 1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- 2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を付ける。
- 3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

<家庭分野>

- 1) 家族、家庭の機能について理解を深め、家族・家庭で、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けけるようにする。
- 2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- 3) 自分と家族・家庭生活と地域とのかかわりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習のしかた

- ・授業の準備物をチャイムが鳴るまでに用意して着席しておく。
- ・人の話をしっかり聴いてさまざまな見方・考え方を知り、授業に主体的に取り組む。
- ・学習プリントやワークの記入・課題の取り組みをしっかりと行ない、期日までに提出する。(×切厳守)
- ・実習や作業の時は、指示のあった服装で取り組み、準備物は忘れない。
- ・作業内容をよく理解し、周りの人と協力しあい、正確で丁寧な作業に心がける。
- ・安全に留意し道具や工具、機器を適切に使用し、自分勝手な行動をしない。
- ・与えられた課題に対し、しっかり取り組む。

授業で使用するもの

- ・教科書(ハンドブック) ・ファイル ・学習プリント(ワークシート)
- ・技術実習時:体操服で行います。
- ・調理実習時:エプロン、三角巾、マスク、ふきん3枚、手拭タオル1枚など。
- ・教科書(ハンドブック)とファイルは3年間使用するので紛失しないこと。

年間学習計画と学習のねらい

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
1 学 期	<p>《材料と加工に関する技術》</p> <p>○木製品の製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴あけ、組み立て <p>《生物育成に関する技術》</p> <p>○人・生物・環境のかかわり</p> <p>○植物や動物を育てる技術</p> <p>○生物の育成計画</p> <p>○生物を育てる技術とわたしたちのかかわり</p> <p>○植物や環境を観察して育成しよう</p> <p>○生物育成に関する評価・活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釘の下穴をあけ、正しい手順で接合し組み立てる。 ・生物を育てる目的をまとめることができる。 ・生物を育てる技術とはどういうことかを理解する。 ・植物を育てるための管理技術を調べ、理解する。 ・植物が育つ環境条件を調整する技術を調べ、活用できる基礎的な資質・能力を養う。 ・植物の成長の状態に合わせ適切な管理作業を行うことができる。 ・植物の栽培を通して、さらなる工夫点や課題点をみつけ解決策を考えることができる。
2 学 期	<p>《エネルギー変換に関する技術》</p> <p>○エネルギー変換と利用</p> <p>○電気をつくる仕組み</p> <p>○電気回路</p> <p>○電気機器の安全な使用</p> <p>○製作品の設計・製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作品の設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の方法、利用について調べる。 ・電気をつくる仕組みを調べ理解する。 ・電気回路について調べ、理解することができる。 ・電気機器の仕組み、安全な使用法を理解する。 ・使用条件に即した製作品の設計・製作をすることができる。
3 学 期	<p>○製作品の製作</p> <p>○エネルギー変換に関する評価・活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工具の使い方を工夫することができる。 ・身の回りで使われている材料の種類や特徴を理解し、使用目的や使用条件と関連させ、製作品を作ることができる。また、基本的な機器の構造と各部の動きに関する知識を身につける。 ・保守と事故防止について理解する。 ・電気製品の製作を通して、さらなる工夫点や課題点をみつけ解決策を考えることができる。

年間学習計画と学習のねらい

	学習すること	学習のねらい
1 学 期	<p><私たちの成長と家族・地域></p> <p>○自分の成長と家族や家庭生活のかかわりを考えよう</p> <p>○家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわりを考えよう</p> <p>・高齢者など地域の人々との関わり</p> <p>・被服実習</p> <p>・夏休みの課題 「朝食メニューコンクール」</p>	<p>・家族の基本的なはたらきと、家族の役割分担を理解する。</p> <p>・自分の成長と家族のかかわりを理解する。</p> <p>・自分の成長や生活は、家庭や家族にかかわる人々に支えられてきたことに気づく。</p> <p>・高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法を考えることができる。</p> <p>・生活を豊かにするものを考え製作の計画をたて、必要な材料や道具を安全で効率的に使うことができる。</p>
2 学 期	<p><私たちの成長と家族・地域></p> <p>○幼児の心身の発達</p> <p>・生活習慣の習得</p> <p>・幼児の生活と遊び</p> <p>○幼児の発達と家族の役割</p> <p>・幼児とのふれあい</p> <p>・調理実習</p>	<p>・幼児の心身の発達を知る。</p> <p>・発達段階に応じた生活習慣の習得や家族の役割について理解する。</p> <p>・幼児にとっての遊びの大切さを理解する。</p> <p>・幼児の心身の発達を考えた遊びやかかわり方を工夫することができる。</p> <p>・簡単な日常食の調理ができる。</p>
3 学 期	<p><私たちの住生活></p> <p>○住まいの働きを知ろう</p> <p>○家族が暮らしやすい住まい方を考えよう</p> <p>○健康を守る室内環境の整え方を考えよう</p> <p>○家庭内事故から家族を守ろう</p>	<p>・住まいの基本的な働きについて理解する。</p> <p>・家族が気持ちよく住まうための工夫を考えることができる。</p> <p>・健康を守るために室内環境を整えることが大切であることを理解し、整え方を考えることができる。</p> <p>・家庭内事故を防ぐための工夫や対策を考えることができる。</p>

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・ 技能	<p>育成する生物の成長の原理法則と、育成環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みやエネルギー変換についての基本的な知識について理解し、安全かつ適切な栽培や電気製品の製作ができる技能を身に付けている。</p> <p>衣食住や家族の生活、消費生活などについて、生活の自立に必要な基礎的・基本的な機能について理解をして、適切な選択や用具の安全な取り扱い、適切な製作ができる技能が身に付いている。</p>	<p>○定期テスト</p> <p>○実習への取り組み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習作業の様子 ・作品の精度 <p>○学習プリントの内容</p>
思考・ 判断・ 表現	<p>生物育成やエネルギー変換について、問題を見出して課題を設定し、問題解決の工夫について考え、栽培計画や電気回路の設計を具体化するとともに、栽培や製作の設計を具体化するとともに、栽培や製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。</p> <p>衣食住や家族の生活、消費生活などについて、これからの生活を展望し、家族・家庭や地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている</p>	<p>○学習プリントの内容</p> <p>○実習への取り組み方</p> <p>○定期テスト</p>
主体的に 学習に取り 組む態度	<p>よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりし、生物育成やエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。</p> <p>衣食住や家族の生活、消費生活などについて、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>	<p>○学習プリントの内容</p> <p>○学習プリントや宿題の提出・整理状況</p> <p>○授業の準備</p> <p>○授業態度・発表内容</p> <p>○実習への取り組み方</p> <p>○定期テスト</p>

その他

観点別評価は、技術分野での評価と家庭分野での評価を合わせ、総合的に評価します。

評価は評価表に基づいてつけます。観点により、比重が異なることがあります。

2年 【英語】

教科の目標

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学習のしかた

- ・積極的に発表や質問をし、先生の説明をしっかりと聞く。また、他の人の発表もしっかり聞き、さまざまな考え方を知る。
- ・授業中のペアワークやグループ活動に積極的に取り組む。
- ・ノートやワークシート等は、丁寧に見やすく書く。ポイントや注意するところをわかりやすく書く。
- ・粘り強く課題に取り組み、新出事項を覚えるようにする。

授業で使用するもの

教科書、ノート、ワークセット、ファイル、chromebook

年間学習計画と学習のねらい

	学習すること	学習のねらい
1 学 期	Unit0 過去形・過去進行形 There is /are の文	一般動詞・be 動詞・過去進行形の過去形を含む文を正しく理解し使えるようになる。 There is /are を含む文を正しく理解し使えるようになる。
	Unit1 未来形 (will/be going to～) 5つの文構造	未来形を含む文を正しく理解し使えるようになる。 目的語を2つ持つ文や目的語と補語を持つ文を正しく理解し使えるようになる。
	Unit2 接続詞 (when/if/that/because)	接続詞 when/that/if/because を含む文を正しく理解し、使えるようになる。
	Unit3 不定詞	不定詞の用法を正しく理解し、使えるようになる。
2 学 期	Unit4 助動詞 (have to/don' t have to/ must/must not) 動名詞	助動詞の用法を正しく理解し、使えるようになる。 動名詞を含む文を正しく理解し、使えるようになる。
	Unit5 疑問詞+to 不定詞 be + 形容詞 + that の文	how to～, that 主語+動詞 等を含む文を正しく理解し、使えるようになる。
	Unit6 比較表現	原級・比較級・最上級を含む文を理解し、正しく使えるようになる。
3 学 期	Unit7 受け身	受け身を含む文を正しく理解し、使えるようになる。

評価方法及び評定について

評価方法

観 点	達 成 目 標	評 価 対 象
知識・技能	知識・技能の習得状況や、既習の内容とつなげて活用する中で、ほかの学習や生活の場面で活用できる程度に理解し、身につけているかを評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業観察 ・ 授業プリント ・ 定期テスト ・ 聞き取りテスト ・ 小テスト
思考・判断・表現	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業観察 ・ 授業プリント ・ 実技テスト ・ 定期テスト ・ 聞き取りテスト ・ 小テスト ・ ALTとのコミュニケーション活動
主体的に学習に取り組む態度	学習に向けた粘り強い取り組みを行おうとしている姿と、その中で自らの学習を振り返り向上させようとする姿を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業観察 ・ 授業プリント ・ 提出物 ・ 授業でのペアワークやインタビュー活動への取り組み

その他

○観点別評価から評定へ

各観点別、A、B、Cの評価をもとに、5段階で評定を行う。

授業の受け方





やす じかん 休み時間のうちに・・・

★次の授業の準備をしよう！

やす じかん 休み時間のうちに次の授業の準備をしましょう。

きょうしつどう 教室移動がある場合は、速やかに移動しておきます。トラブルのもとになるので、わす 忘れ物をして人も人に借りないようにしましょう。じゅぎょう はじ 授業が始まってからロッカーへ用意を取りに行くのもNG。もし、用意を忘れてしまったときは、担当の先生から許可を得て、ほか 他人を待たせないように急いで準備しましょう。



チャイムが鳴ったら・・・

★あいさつをしよう！

じゅぎょう せんせい みな 授業は先生と皆さんと一緒に作るものです。きょうりやく あ 協力し合うせんせい なかま 先生と仲間に対して、授業の始まりと終わりにはしっかり声をだ 出してあいさつしましょう。

あいさつのときは、机の右側に一歩出ます。



授業中は・・・

★めあてを元に、授業の見通しをもとう！

めあてを意識し、必要な情報は何か考えよう。そして、どのように取り組めば課題かいけつ 解決に向かっていけるか、見通しを持ちましょう。

★意見を発表しよう！

いけん こうりゅう 意見を交流することで、自分の考えと他の人の考えを比べたり、「なるほど！」と理解を深めることができます。グループの場面でもクラス全体の場面でも、自分の考えをどんどん出していきましょう。



★相手の顔を見て話を聴こう！

人は、入ってくる情報の80%を目から得ていると言われていす。ですから、相手の話を聴くときには、耳だけでなく目も使って聴きましょう。その方がより確実に記憶に残ります。また、相手の顔を見て聴くと、相手に「ちゃんと聴いてもらえた」という安心感を与えることもできます。



★気づいたことはメモをとろう！

「黒板には書いてないけど重要なこと」「自分が間違いそうな漢字」「自分では気づかなかった友だちの考え」等、ノートやプリントにどんどんメモしよう。後から見直して、「わかりやすい!」と思えるノート・プリントに仕上げよう。



★ペア・グループで学ぼう！

神戸中学校の授業では、ペアやグループなど小集団で学習する場面があります。ペア・グループ学習では、仲間との協力が不可欠です。机を合わせるときは、お互いの考えを交流しやすくするために、教科書や筆箱は机の外側に置いて、机の中央はあけるようにしましょう。そのスペースに使用する課題のプリントなどを置くと、グループ全員が見やすくてい



いですね。ただし、スペースをあけるためにお休みの人の机を物置がわりに使うのは慎みましょう。

グループの課題が出されたら、まずは、「今まで習ってきた知識を使って解けないかな?」「似たようなことを聞いたり体験したりしてないかな?」と、自分で考えてみましょう。自分の考えをもった状態でグループ学習に臨めば、自分と同じ考えや違った考えに刺激され、より深く学ぶことができます。

意見を交流すると、自分の考えと他の人の考えがちがうこともあります。そのような時は「なんでそうなるの?」と聞いてみましょう。聞かれた人は、相手に自分の考えが上手に伝わるように頑張って説明してみましょう。そうすると、聞いた人がわかりやすいだけでなく、聞かれた人も説明することで考えが整理されてより深く理解でき、まだよくわかっていなかった部分が明確になります。聞き上手、説明上手になり、お互いレベルアップしていきましょう。

★自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かそう！

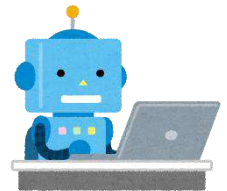
学習内容を文章や言葉で振り返ったり、確認問題に取り組んだりすることで、授業の内容を確実に理解できるように努めよう。毎回の授業をしっかりと振り返ることで、より授業の内容が定着しますよ。また、前の授業の振り返りから次の授業へつなげる部分を見つけ出し、理解を深めよう。



どうしてペア学習やグループ学習を行うの？

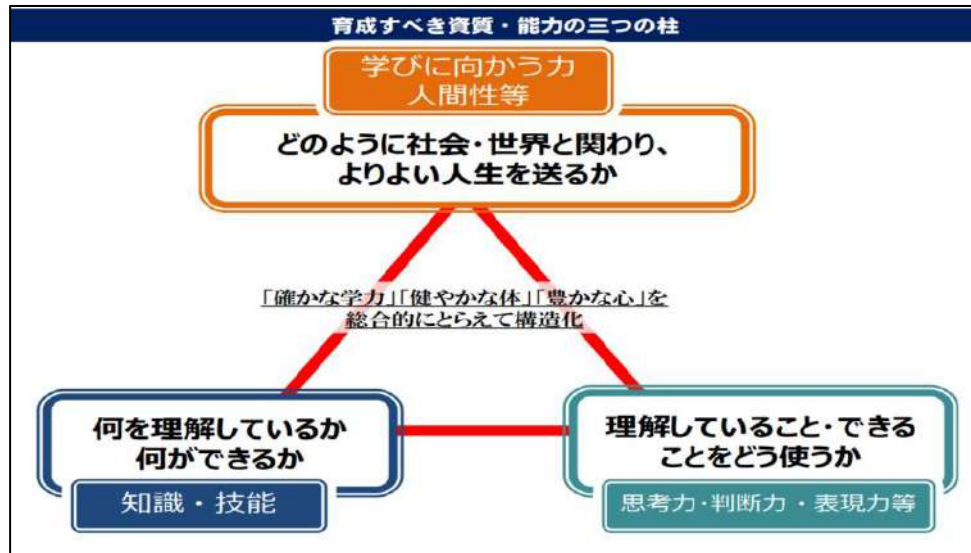
⇒ 将来に必要とされる力を育てるため！

みなさんが大人になる10年、20年後、今ある仕事の半分近くは機械に替わる※とされています。単純に覚えるだけ、繰り返すだけならロボットの得意分野ですからね！



では、みなさんが将来社会で活躍するには、どのような資質・能力が必要になるのでしょうか？

令和3年から実施された学習指導要領では、その資質・能力を次の3つにまとめています。



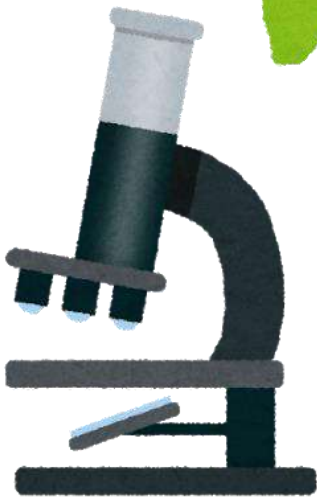
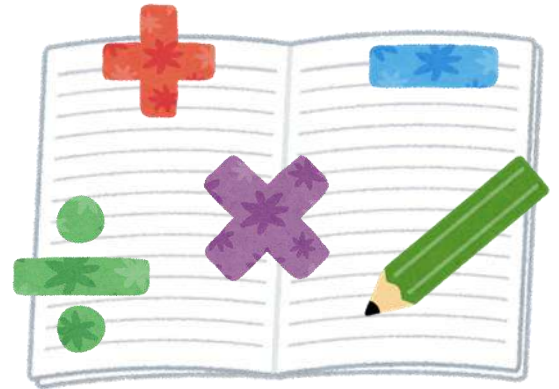
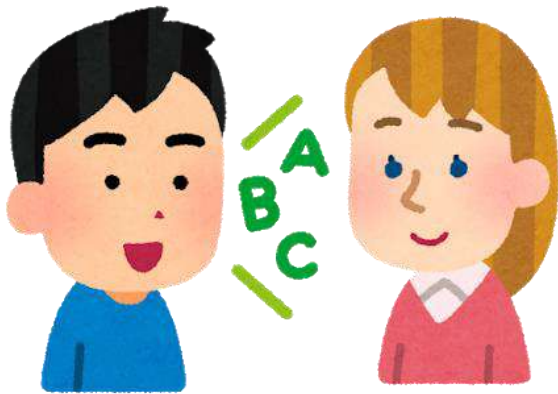
この資質・能力を育てるために、神戸中学校ではペア・グループ学習を取り入れています。

学んだことを使ってみんなで課題に挑戦したり、わからないことが友だちの一言で「なるほどね！」と理解できたり、自分とちがった意見に出会って「その考えもアリかもね！」と選択肢が増えたり、人とたくさん関わることで上手な関わり方を学んだり…。

ペア・グループ学習には、みなさんの資質・能力を育てるチャンスがいっぱい！みなさんが将来社会で輝けるように、積極的に参加していきましょう！

※野村総合研究所・オックスフォード大学
マイケルA.オズボーン准教授の計算(2015)

かていがくしゅう てび 家庭学習の手引き



なぜ家庭学習が必要なのだろう

中学校では・・・

- ・ 学習内容が多様になり、**自ら課題を見つけ解決する力**が必要になります。
- ・ **筋道を立てて考える力**や**広い視野で物事を見る力**がさらに必要になります。
- ・ 新しく学習したことを覚えるだけでなく、**生活に関連づけて自分の考えを言えること**が必要になります。
- ・ 自分の特性を理解してくるとともに、**得意な教科・苦手な教科**がはっきりとしてきます。

家庭学習をするとどうなるのだろう

- ☆好きなことが見つかる。
- ☆自分の考えが持てるようになる。
- ☆将来の選択肢が広がる。

家庭学習はどんなことをすれば良いのだろう

- ① 学習内容の定着を図るために、**復習**をしましょう。
- ② 今後の学習内容の見通しを持ち、授業に主体的に取り組むために、**予習**をしましょう。
- ③ 自分の関心のあること、より深く理解したいことについて、**自主学習**をしましょう。
(本や新聞を読んだり、辞典や図鑑を手にとって調べてみたりすると良いですね。)

家庭学習はどのようにすれば良いのだろう

家庭学習は「**習慣化**」することが大切です！ そのために・・・

- ① 何ができるようになればよいか、**目標**を明確に設定しましょう。
- ② 落ち着いて、学習に集中できる**環境とルール**をつくりましょう。
- ③ 食事、睡眠、排便の**基本的な生活習慣**を確立しましょう。
(家の仕事の手伝いをすることも大切です。)

明確な目的と目標の設定

家庭学習の習慣化

学習環境とルールづくり

基本的な生活習慣の確立

かていがくしゅう 家庭学習の6つのポイント

もくてき もくひょう せってい ★目的と目標を設定する

- ・何ができるようになれば良いのか（目的）を決めましょう。
- ・目的の達成に向けて、何をするのか（目標）を決めましょう。

いえ べんきょう じかん き ★家で勉強する時間を決めておく

- ・帰ってから勉強を始める時間を決めましょう。
- ・どれだけの時間勉強するのかを決めましょう。

※「部活動のある日」「部活動のない日」「塾などのある日」「休日」で勉強時間の基本的な計画を作っておくとよいです。

つくえ み まわ かたづ ★机や身の周りのものを片付ける

- ・学習場所には、学習に必要なのないものは置かないようにしましょう。

★「ながら勉強」はしない

- ・テレビを見ながら、スマホ等を使いながら…といった学習のしかたはやめて、学習に集中しましょう。

さいしよ しゅくだい ★最初に「宿題」をする

- ・宿題は後回しにすると、結局できなくなることがあります。苦手な教科でも、必ず帰ったら宿題を最初にすることが大切です。
- ・その日に出された宿題は、その日のうちに必ず仕上げましょう。

こた おぼ かんが かた おぼ ★答えを覚えるのではなく、考え方を覚える

- ・なぜそうなるのか、どうしたら解けるのかを理解しましょう。
- ・ワーク等の答え合わせをするときには、解説をよく読みましょう。

こくご 国語

中学校の国語において身につけたい力は、全部で4つです！

具体的には、「話す力・聞く力」「書く力」「読み取る力」「国語の知識」になります！

しかし！！

どの力をつけるにしても根幹にある大切な力があります。

それが、語彙力（「どれだけ多くの言葉を知っているか」、「どれだけ言葉を使いこなせるか」に関する能力）です！！

国語という言語教科を学習するにあたって、語彙力は必要不可欠な力になります。

家庭学習を通して、少しでも多くの言葉に触れ、語彙力を高めていきましょう！！

1 家庭学習について

家庭学習では主に普段学習している単元や作品に関する語彙（言葉・語句）について学習しましょう。

① 漢字の学習をする。

音・訓などの読み方はもちろん、筆順・部首などにも注意しながら書けるようにしましょう。

② 意味調べをする。

学習する単元や作品の中でわからない言葉があれば、意味調べをしておきましょう。

知っている言葉でも、調べてみると意外と間違っていることに気づくこともあります。

③ 音読をしよう。

特に古典などの作品を学習しているときは、古典特有の言い回しや区切り方があるので、

教科書を音読し、さまざまな感覚（視覚、聴覚）を活かして学習していきましょう。



2 定期テストの対策について

① 本文を何度も読んでおこう。

テスト当日、本文を一から理解しながら読んでいると、時間が足りなくなってしまうことがあります。予め範囲がわかっている本文は何度も読んでおき、どこにどんなことが書いてあるか理解しておきましょう。

② 表現技法の復習をしておこう。

授業で習った表現技法などを再度確認しておきましょう。

③ 作者について知っておこう。

定期テストに限らず、著名な作家や作品は問題として出てくる可能性があります。資料集や教科書を使って、作者や作品を調べておきましょう。

3 アドバイス

上記で触れたこと以外に自主的に学習しておいた方が良いものを紹介します。

① 慣用句

② 熟語（四字熟語・熟語の構成など）

③ ことわざ

④ 故事成語

この4つは、日常生活の中で使っている人と使っていない人で、知っている言葉の数が大きく、学習しておかないとわからないことが多いです。定期テストだけでなく、実力テストや受験などでも問われることが多いので、日常生活の中で意識してこれらの言葉を使い、少しずつ身につけておきましょう！！

社 会 科

1 家庭学習

●地理的分野の学習方法

・地図を頭に入れることが大切です。世界地理の場合は州ごとに、日本地理の場合は地方ごとに、略地図を描いてみましょう。そこに、地形や気候、盛んな産業、重要語句などを書き込むとより効果的です。



●歴史的分野の学習方法

・「時代の流れ」をきちんと頭に入れることが大切です。そのために、歴史年表を作ることが効果的です。授業で習ったところを中心に略年表を作ってみましょう。「いつ、どこで、だれが、何のために、何をしたか」を書き加えると、より時代の流れを整理しやすくなります。余裕があれば、日本と海外の流れをリンクさせるとより効果的です。

●公民的分野の学習方法

・公民は現代社会の動きと関わっている部分がとても多い分野です。世の中の動きを知るために、新聞を読んだり、ニュースを見たりする習慣を身につけましょう。議院内閣制や三権分立などは、図式化すると関係性がわかりやすくなり、効果的です。

2 定期テストの勉強のしかた

- ・まずは、重要語句（教科書の太字）を覚えましょう。教科書を繰り返し音読し、何度も書き写しましょう。
- ・教科書や資料集にある資料の読み取りをしましょう。資料からわかることやどのような変化が見られるかなどを中心に読み取りましょう。
- ・学校で使っているワークに繰り返し取り組みましょう。何度も復習することが大切です。

勉強中です



3 アドバイス

- ・自主学習ノートを作り、授業があった日に復習しましょう。
- ・教科書を5～6回、声に出して音読しましょう。
- ・学校で使っているワークに取り組みましょう。
- ・重要語句を文で説明すると、記述問題の練習になります。

数 学 科

1 家庭学習

(1) 毎日の家庭学習

- その日の授業でノートに書いたことがきちんと理解できているか見直します。
- 授業中に行った練習問題（教科書の例題や問い）に、繰り返し取り組んだり、習った範囲のワークを進めたりするなど、反復練習をしましょう。

(2) 自主学習

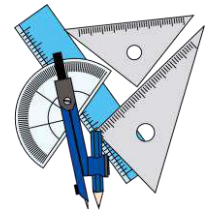
- 応用・発展的な課題に取り組みましょう。
教科書やワークに掲載されている応用問題や発展問題に取り組みます。教科書の後ろの「自分から学ぼう編」を活用するのもよいでしょう。また、過去の入試問題に取り組み、力をつける方法の1つです。自分で問題が作れるようになると、さらに様々な力が定着します。

- ※自主学習ノートには、取り組んだ日・問題のページ・問題番号も書いておきましょう。
時計を見て、問題を解く時間を計りながら取り組むと、集中力UP!につながります。

2 定期テストの勉強のしかた

数学では、「はかせどん（速く、簡単に、正確に、どんなときも）」で解けるようになることが必要です。出題される学習内容を、もう一度自分で解き直し、解けるようになるまで練習しましょう。また、うっかりミスをなくすために、これまでの学習の中で、自分がミスをしたところを思い出せるノートをつくりましょう。そのノートは、自分にとっての最大のテキストになります。

テスト後は、テスト問題をやり直しましょう。間違った問題をそのままにしておいたら、力はつきません。テスト後は必ず自分の解答を振り返り、反省しながら、間違った問題を解き直しましょう。その際は、なぜ間違ったのかを合わせてメモしておくと、次回のテストにつながります。

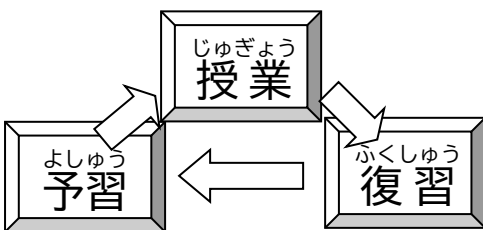


$$5a - a = 5 \quad \leftarrow \text{消さない}$$
$$\cancel{= (5-1)a}$$
$$= 4a$$

1a

3 アドバイス

下のようなサイクルで学習を進めていくと、より効果的な学習につながります！



- (1) 日頃から予習に取り組みましょう。
- (2) 授業では、予習をしたときになんとなく分かったつもりになっているものを特に集中して聞くようにしましょう！
- (3) 家に帰ったら復習しましょう。
- (4) 復習が終わったら、次の授業の予習をしましょう。



理科

1 家庭学習

<その1> その日に学習した教科書の内容を読み返そう。大切な用語だけではなく、写真や図も見返しましょう。

<その2> ノートを読み返そう。大切な用語を別のノートや紙に書いて覚えると効果的です。



気になったことは、コンピュータを活用したり、科学館や博物館を利用して調べられるとさらに良いですね。

2 定期テストの勉強の仕方

宿題として取り組んでいるワークや学習プリントを自分の力でもう一度やり直しましょう。

「大切な用語」は、きちんと書いて覚えましょう。また、漢字で表記してある用語は、正しい漢字で覚えることが大切です。特にワークや学習プリントで間違えた問題は何度も繰り返し解いて覚えるようにしよう。

3 アドバイス

~~(X)~~ ✓ (1) ➡ ✓ ~~(X)~~ ✓✓ (1) ➡ ✓✓ ~~(X)~~
1回目で解けた 1回目で解けなかった 2回目に解けた 2回目も解けなかった 3回目に解けた

解けたら問題番号に「/」を書き、解けなければ「✓」を書いていきます。そうすれば、ぱっと見ただけで、どの問題が解けていて、どの問題が解けていないかわかるようになります。同じ問題集を繰り返し解いていくときは、「/」が入っていない問題だけ解いていきます。

この方法を使えば、一回目はすべての問題を解くことになりますが、二回目以降は解けた問題はとばしていくことになるので、スピードが上がります。わからない所を重点的に解いていくことができます。

えいごか 英語科



1 家庭学習

- 学習する単語・語句がどんどん増えていきます。一度にたくさん覚えようとせずに、毎日の家庭学習や自主学習の中で、確実に覚える工夫をしましょう！！
- 自宅の学習では、クロームブック等を活用して、教科書の単語の音声の音を聞いたり、わからない単語を調べたりすると効果的です。
- 実用英語検定（英検）や TOEIC などにチャレンジするのも将来性があります。

2 定期テストの勉強のしかた

まずは基本文や新出語句・文法を覚えよう。それができたら、学んだことを使って場面設定や状況に応じた表現ができるような問題にチャレンジしましょう。

3 アドバイス

学年別アドバイス

1年 小学校で学習したことを中学校でも活用できるようにしましょう。そしてどんどん声に出して英語を読むようにしましょう。

2年 復習が大事です。今までに学習したことでわからないところを発見して、早めに克服しておきましょう。

3年 受験に向けて基礎基本を確認し、応用問題にもどんどん取り組みましょう。

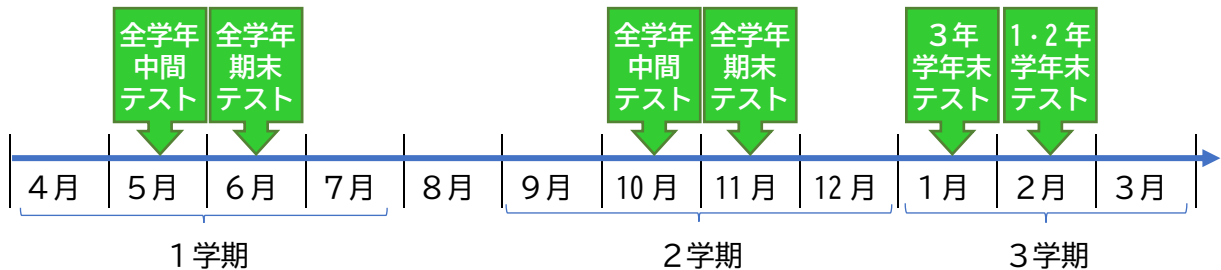
☆たくさんの英語に触れ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の力を伸ばしましょう！



定期テストに向けた勉強のしかた

定期テストとは

- ・学習内容の定着状況を確認するために行うテストのこと。
- ・神戸中学校では、年間5回行う。

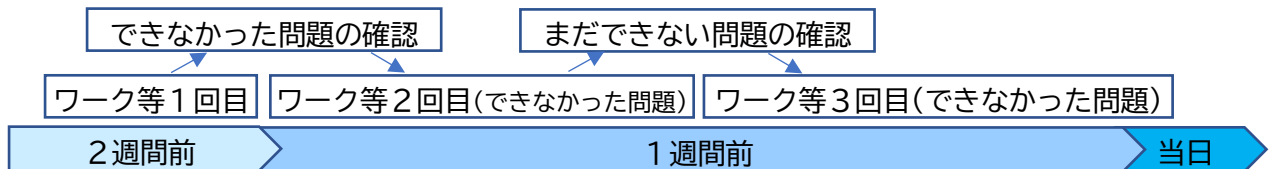


- ・中間テストは5教科(国・社・数・理・英)、期末テスト・学年末テストは全教科で行う。
- ・それぞれの定期テストは出題範囲が広いため、効率よく勉強をする必要がある。

定期テストに向けた勉強のしかた

① 計画的に勉強しよう

- ・およそ2週間前から定期テストに向けた勉強を始めよう。
- ・テスト1週間前にはテスト範囲の発表があり、部活動が原則停止となります。さらに集中してテスト勉強に取り組もう。



- ・テスト直前に必死になるのではなく、毎日の授業に集中すること、毎日の家庭学習(予習・復習・自主学習)をコツコツ積み上げることが、最もよいテスト対策になります。

② 教科書、ノート、ワークやプリントなどを使って勉強しよう

- ・教科書を何度も繰り返し読もう。
- ・ノートやワークシートを見直し、学習内容の重要なポイントを確認しよう。
- ・新出漢字や新出単語、重要語句などは、何度も書いたり、声に出したりして覚えよう。
- ・ワークやプリントの問題は繰り返し解こう。一度解いてわからなかった問題はチェックしておき、二度、三度とわかるようになるまで繰り返し解き直そう。

③ わからないことは質問しよう

- ・わからないことがあれば、教科担当の先生に質問しよう。
- ・定期テスト直前には、教科担当の先生に質問ができる「放課後学習」が開かれます。積極的に活用しよう。